

平成31年度に実現しよう、 『松田小の木づくり校舎』を！



質問者
田代 実 議員

教育施設整備基金は、平成31年度の松田小学校校舎建替事業を目標に創設されたもので、平成28年度末の積立額は2億5千万円余りになります。そして、平成28年第3回定例会で議決(9月9日)した「木の学校づくり先導事業」により、「松田小



昨年11月2日に議会で視察した川上中学校給食室

の木づくり校舎建設」が本格的にスタートしました。

松田町にとって夢を抱ける大きな事業ですので、次のことについてお伺いします。

(1) 平成31年度を建替工事着手とするためのスケジュールは。

(2) 木づくり校舎の規模・総事業費・財源内訳は。

(3) 松田小の木づくり校舎は、松田町の遺産とするべきものと考えます。実現に向けての町長の思い入れは。

A 木づくり校舎の先進モデルとして取り組む

回答 (教育長・町長)



(1) 平成29年度はプロポーザル(企画提案)方式により、設計者と施工者の企業体を選定し基本設計を、また国庫補助金を取得するため、校舎耐力度診断を行う。30年度は実施設計、31年度には校舎本体工事に着手、32年度は既存校舎の解体とグラウンドの整備を予定している。

(2) 現グラウンドに3階建

ての木づくり校舎を整備する。既存学級数と同程度の教室、体育館や学童保育室などの付帯施設を設置し概算事業費は25億円となる。財源内訳は、国庫補助金5億円・起債16億5千万円・一般財源は3億5千万円で、その

小田原・南足柄両市の合併問題を問う



質問者
小澤 啓司 議員

うち3億3千万円は教育施設整備基金を充てる。

(3) 斬新なデザインを取り入れ、全国の先進モデルとなるよう町民の意見を聞きながら、木づくり校舎の建設に取り組んでいく。

2017年1月24日、第3回任意協議会が開催され、今後の協議を行うために、編入合併方式と2020年度中の合併方針が承認された。松田町の将来設計にも大きな影響が予想されるので、次のことについて質問する。

(1) この合併の流れをどのように受け止めているか。

(2) 上郡5町の情報交換

A 5町の副町長を中心に議論を進めている

回答 (町長)



や意思疎通は図られているか。

(1) 合併協議はあくまで

も小田原市と南足柄市の協議であるが、二市を含む周辺自治体とは、足柄上衛生組合・ごみ処理広域化・斎場事務広域化などいろいろな広域連携業務を結んでいる。協議の進捗状況によっては影響が考えられるが、二市の動向を見極めつつ慎重に対処する。

(2) 足柄上郡五町では副町長を中心に「広域担当課長会議」を設けて、次のような協議を続けている。

- ① 新市を含めた広域連携業務について共同処理の検証と対応
 - ② 広域観光・定住促進・防災対策・交通ネットワークなどの政策的課題
 - ③ 税務事務や水道業務など事務の効率化
- 平成20年に検討された合併論議を参考に、上郡五町の連携強化を共同歩調で推進すると共に、町民の意思を尊重し判断する。